

■ 事業報告 ■

資料センター開所式

一般社団法人徳島県労働福祉会館（以下、労働福祉会館）が運営する、とくしま社会運動資料センター（以下、資料センター）の開所式を、10月1日、ヒューマンわーくびあ徳島において行いました。

式典には、徳島県並びに会員団体、関係諸団体、そして貴重な資料提供をしてくださった方など、約50名の方々にお集まり頂きました。

資料センター事業は、昨年の労働福祉会館臨時総会において公益目的事業として決議され、今年4月1日から一般社団法人への移行と同時に、スタートすることとなりました。設立準備会の発足、資料収集、運営規定の作成、寄贈図書の整理、データベース化などの諸準備を経て、今日のオープンに至りました。

開所式当日は、河村和男理事長が所用により不在のため、資料センターのセンター長である久積育郎副理事長が主催者代表として挨拶を行いました[*別記]。また来賓として県労働雇用課の谷口右也課長、鳴門市賀川豊彦記念館の田辺健二館長より祝辞を頂きました。続いて資料センターの概要の説明があり、その後テープカットを行いました。



テープカットには、県労働雇用課の谷口課長、久積副理事長・センター長、鳴門市賀川豊彦記念館の田辺館長、全労済徳島県本部の川越敏良本部長が加わりました。

式典終了後は、参加者の方々を同館2Fの資料センター閲覧室、また同時開催しているパネル展会場(5F大ホール)へ案内しました。

閲覧室では、室内見学、収蔵図書の閲覧の他、DVD(『映像で見る賀川豊彦とその時代』)のミニ上映会を行いました。

[*久積副理事長・センター長の挨拶内容主旨]

おはようございます。とくしま社会運動資料センターの開所に際し、賀川豊彦記念館 田辺館長、徳島県労働雇用課 谷口課長を始め多くの方々にご参加を賜り厚く御礼申し上げます。一般社団法人徳島県労働福祉会館を代表いたしまして、開所に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

さて、社団法人労働福祉会館は、公益法人改革に伴い本年4月1日より一般社団法人として再スタートいたしました。この一般社団法人移行に際し、従来の資産は公益目的に支出するというので、公益目的支出計画を策定することとなりました。私共の労働福祉会館は労働者の砦、働く者のセンターとしての役割を担ってきました。労働運動が中心的役割を担った社会運動に関する資料センターを設置し、県内における様々な労働運動 社会運動の歴史を次の世代に継いでいくことが必要ではないかとの結論



に至り、とくしま社会運動資料センターを設置することとなりました。

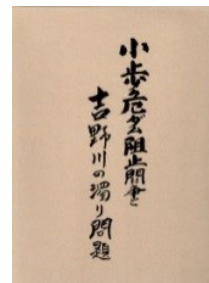
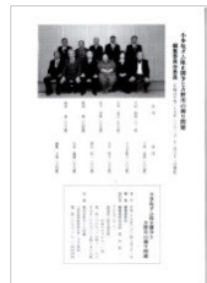
本日は開所記念として、特別企画展、第1回公開講座も開催いたします。あわせてご参加いただければと思います。最後になりますが、とくしま社会運動資料センターに対する皆様方の積極的なご支援、ご協力をお願い申し上げ、開所に当たってのご挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

///おススメの書籍///

書籍名 小歩危ダム阻止闘争と吉野川の濁り問題

出版 [小歩危ダム阻止闘争と吉野川の濁り問題]編集委員会

【書評】1950年のダム建設計画発表から、71年に計画中止が決定されるまでを年次を追って記述。住民の反対運動を受けて計画が中止に向けて大きく動いた当時の状況を、県議会や地元町村議会の議事録、徳島新聞の記事を参考にまとめた。早明浦ダムの完成に伴う吉野川の濁り問題にもページを割いた。[徳島新聞Webより引用]



■告知・案内■

◎第2回公開講座の開催予定

日時 2015年2月28日(土)10:00～12:00

場所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

参加 一般の方誰でも

内容 『連続講座 阿波女の輝き-20年史-(仮題)』

講師 乾 晴美 (元参議院議員/AWA女性研究所 代表)

◎研究会メンバーの募集

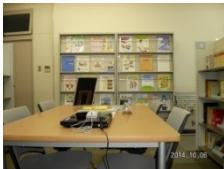
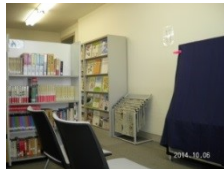
とくしま社会運動資料センターでは、徳島における社会運動に関する研究会を開催します。参加資格は問いません。興味のある方は、ぜひご参加ください。

募集要項、開催案内につきましては、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★
徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 関 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005 / メール roukan@workpia-tokushima.jp

URL <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■ 事業報告 ■

特別企画『賀川豊彦と社会運動』パネル展



資料センターの開所を記念して、特別企画として『賀川豊彦と社会運動』と題したパネル展を、ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて開催しました。開催期間は10月1日(水)～12日(日)までの12日間。期間中は、労働福祉会館の関係団体の他、任意団体やNPO法人の代表の方など、一般来館者を含めて、延べ120名が訪れました。パネルは『賀川豊彦記念館 展示パネルデータ2002年3月』より代表的な写真を展示しました。また予備のパネル資材を利用して、『2012国際協同組合年』の周知用パネルも展示しました。

第1回公開講座

とくしま社会運動資料センターの第1回公開講座が、10月1日18:00より、ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて行われ、約50名の参加者がありました。主催者挨拶は、とくしま社会運動資料センターのセンター長を務める久積副理事長が行いました[*別記]。司会は運営委員である東條恭子委員が行い、資料センターの概要についての紹介の後、講座に移りました。講師には鳴門市賀川豊彦記念館館長の田辺健二氏を招き、『賀川豊彦と協同組合主義 - 貧困を論じて宇宙の目的に及ぶ-』と題したテーマで、2時間に亘りご講演頂きました。



講演の中で、日本と世界の現状、それぞれの経済的、政治的な課題を出して頂きました。また日本は自然が資源であること、世界観や人間観が持てる市民教育が必要であることを強調され、さらには宇宙的スケールの賀川豊彦「相互扶助論」をお話し頂きました。

[*久積副理事長・センター長の挨拶内容主旨]

みなさんこんにちは！本日は大変ご多忙の中、社会運動資料センター発足記念の第1回公開講座に多くの皆さんにご参加を賜り、厚く御礼申し上げます。開所に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

さて、本日10時1Fロビーにて、関係者約50名の参加により社会運動資料センターの開所式を取り行いました。その開所を記念し、本日より12日まで『賀川豊彦と社会運動』と銘打って特別企画パネル展を開催いたします。また社会運動の大先達であり、協同組合の父と言われ、わが郷土徳島が育んだ「賀川豊彦と協同組合主義」をテーマに第1回公開講座を開講することと致しました。講師はもちろん、鳴門賀川豊彦記念

館の田辺館長であります。

2009年の賀川豊彦献身100年記念事業に日本各地のみならず、世界各国とも連帯し、徳島プロジェクトとして県民フォーラムの開催、『死線を越えて』の1万人上映運動など10のプロジェクト事業に取り組みました。そしてこの献身100年徳島プロジェクト事業を新たなスタートとして賀川豊彦関係団体連絡協議会を設立いたしました。以降2012年国際協同組合年の取り組みをはじめとして賀川豊彦記念館の諸事業に積極的に参加してきてところであります。

私どもは、本日社会運動資料センターの設立を機に近代日本のグランドデザイナーとしての賀川(豊彦)精神をしっかりと継承し”万人は一人のために、一人は万人のために”努力する社会、貧困と格差の無い平和な社会を目指して、少しでも貢献することができればと考えています。その記念すべき第一歩の公開講座を田辺館長にお願いできたことは私どもにとって限り無い喜びであります。本当にありがとうございます。

最後になりましたが、当センターの最大の役割は、県内における様々な労働運動、社会運動の歴史を次の世代に引き継いで行くことにあります。そのための様々な、かつ貴重な資料をしっかりと収集し、保全していきたいと思ひます。皆様方の積極的な資料提供、ご協力、ご支援をお願い申し上げ、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。



2014.10.02 徳島新聞

■告知・案内■

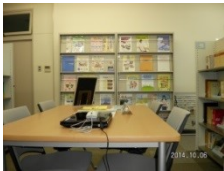
◎研究会メンバーの募集

とくしま社会運動資料センターでは、徳島における社会運動に関する研究会を開催します。参加資格は問いません。興味のある方は、ぜひご参加ください。

募集要項、開催案内につきましては、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★
徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。
★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 閲覧室の利用案内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1/TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005/メール roukan@workpia-tokushima.jp

URL <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■事業報告■

第2回公開講座 (2015.2.28)



一般社団法人徳島県労働福祉会館が運営する、とくしま社会運動資料センターの公開講座が、2月28日(土)ヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホールにて開催されました。第2回目となる今回は元参議院議員でAWA女性研究所代表の乾晴美氏を講師に招き、『輝いた阿波の女性たちⅠ』と題した約2時間の講義に65名の方が参加しました。司会は、前回に引き続いて資料センターの東條運営委員が務めました。

乾講師は講義の冒頭、明治5年に学校制度が確立されてから以後も、四行、三従七去を遵守する封建思想が教え込まれ、それが因襲となって今日まで生き続けていると述べられました。

続けて、獄中から女性の参政権を訴え後に女性差別に関する国際条約の批准に国会議員として貢献した市川房枝さんのことを話され、そして乾講師自らの活躍の場でもあった徳島県内における教育行政・労働行政において女性の地位向上の分岐点となった主な出来事、さらには昭和56年の徳島県女性協議会の設立についてまで、女性運動の萌芽とも言うべき時代について熱弁を振るわれました。

講座では『徳島県女性協議会20年史』をテキストとして使用し、県女性協議会の活動の足跡の他、女性の地位向上に腐心した人物、県行政の取組みにおいて功績のあった団体が紹介されました。

今回の講座は『輝いた阿波の女性たち』と題した連続3回講座の第1講であり、2015年度中に残り2講座を行い、講義内容を取りまとめて書籍化する予定です。



特別企画 『輝いた阿波の女性たち』パネル展 (2015.2.16-27)



公開講座の開講に先立って、2月16日(月)から27日(金)までの間、同テーマのパネル展をヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホールにて開催しました。パネルには『徳島県女性協議会20年史』より主要部分をページ印刷したものを使用し、女性運動の発展史、県女性協議会の沿革がわかる内容としました。今回のパネル展では、労働福祉会館の関係団体をはじめ、任意団体やNPO法人の代表の方など、一般来館者を含めて延べ105名の方が訪れました。

《2014 年度 資料センター備品の受贈報告》



パネル展示用ボード
(クロスパネル) 一式

全労済徳島県本部様より



スライドハンドル式
移動書架一式

四国労働金庫様より

/// 新着入荷のお知らせ ///

『ダイヤモンドより平和がほしい -子ども兵士・ムリアの告白』

後藤健二著, 汐文社, 2005

『阿波の歴史小説《35》戦後70年平和を見つめて』

阿波の歴史を小説にする会編著, 阿波の歴史を小説にする会, 2014



■告知・案内■

◎第3回公開講座の開催予定

日 時 7月18日(土)10:00~12:00

場 所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

参 加 一般の方誰でも

内 容 『連続講座 輝いた阿波の女性たちⅡ』

講師 乾 晴美 (元参議院議員/AWA女性研究所 代表)

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 観 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1/TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005/メール roukan@workpia-tokushima.jp

URL <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■事業報告■

第3回公開講座 (2015.7.18)

とくしま社会運動資料センターの第3回公開講座が、7月18日(土)、ヒューマンワークびあ徳島5F大ホールにて開催されました。今回は徳島における女性運動の歴史を学ぶ『輝いた阿波の女性たち』と題した連続講座の第2回目であり、講師は元参議院議員でAWA女性研究所代表の乾晴美氏が務め、約2時間の講義に60名の方が参加しました。



冒頭、社会運動資料センターの久積センター長より、「前回参加された方はテキスト『徳島県女性協議会 20年史』をお持ちのことと思います。今日も乾節が聞けるかと思うので、皆さん、しっかり勉強しましょう」と挨拶があり、続けて講座に移りました。

今回の講座は、既に他界された方で徳島の女性史に於いて草分けとなった5人の人物列伝です。考古学者鳥居龍蔵の妻として知られ「男女共生の先駆」と言われた鳥居きみ子、茶道家であり戦後の婦人活動の原動力となった坂口あさ、



教育者として「教え子を再び戦場に送るな!!」の信条を貫き四国の民主教育のリーダー的存在であった坂尾茂子、終戦直後サトウハチローが改作したことで知られる国民歌『お山の杉の子』の原作者であり童謡作家の吉田テフ子、そして昭和21年4月10日戦後初の衆議院選挙に立候補して日本初の女性議員39名の中にその名を刻んだ紅露みつ。以上の方々について、徳島の女性史において未だ色褪せることのない功績を学びました。

途中、乾講師の教職時代の同僚であった藤岡哲夫さんの生ギター演奏があり、吉田テフ子作「お山の杉の子」など軽快なトークを交えながら数曲が披露されました。

最後に、社会運動資料センター運営委員であり今回の司会進行を務めた東條恭子さんから「今日は女性の地位向上に生涯をかけて取り組んだ方たちを紹介していただきました。もっともっと乾先生の話



聞きたいです。」と締めくくりの挨拶がありました。

特別企画 『賀川豊彦と吉野作造』パネル展 (2015.9.28-10.9)

9月28日(月)から10月9日(金)までの間、ヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホールにて特別企画『賀川豊彦と吉野作造』を行いました。労働福祉会館の関係団体をはじめ、任意団体やNPO法人の代表の方など、一般来館者を含めて延べ95名の方が訪れました。今回展示した写真パネルは、賀川豊彦記念松沢資料館より提供して頂きました。その元出典は賀川豊彦記念松沢資料館のほか、学校法人東北学院、吉野作造記念館、公益財団法人東京大学YMCA寮、社会福祉法人賛育会、日本基督教団陸前古川教会となっています。



◎研究会メンバーの募集

とくしま社会運動資料センターでは、徳島における社会運動に関する研究会を開催します。参加資格は問いません。興味のある方は、ぜひご参加ください。募集要項、開催案内につきましては、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

《《 閲覧室の利用案内 》》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005

メールアドレス roukan@workpia-tokushima.jp

ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■事業報告■

第4回公開講座 (2015.10.3)



一般社団法人徳島県労働福祉会館が運営する、とくしま社会運動資料センターの第4回公開講座が、10月3日(土)ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて開催されました。今回は『輝いた阿波の女性たち』と題した連続講座の3回目。講師は元参議院議員でAWA女性研究所代表の乾晴美氏が務め、約2時間の講義に75名の方が参加しました。また聴覚障害者のための要約筆記を行う

NPO法人「文字情報支援ひこばえ」から3名の方が来られ、本講座の音声内容をノートパソコンに文字情報としての記録入力を行いました。

冒頭、労働福祉会館の藤原理事長より「今、朝のNHK連続テレビ小説で、日本最初的女子大学を設立した実在人物・広岡浅子さんをモデルとした『あさが来た』が放映されています。ドラマは封建制が色濃く残った幕末期から描かれております。広岡浅子は、明治期にかけて実業家として活躍すると同時に、女子教育の発展に奔走した人物であります。また先に放映された『花子とアン』では村岡花子さんの半生が描かれ、その中には女性の参政権を訴えた市川房枝さんも登場します。女性運動家を取り上げた今回の講座は、このような時期に相応しいものであると考えます。」と挨拶がありました。

:

今回の講座は、現在活躍中の女性運動家9名をゲストに迎え、乾講師がコーディネーター役となり、一人一人に生い立ち秘話から人生の転換期、そして女性運動・市民運動にかける思いを語って頂きました。乾講師を含めて10名の皆さん総じて、両親や家族の理解と協力があった点、ご自身の経験則も踏まえて学校教育や社会教育の大切さを説かれていた点が共通してい

出演者プロフィール

原 孝枝	白うめ幼稚園理事長／徳島県女性協議会元会長
磯田 正江	徳島県退職女性教職員協議会前会長／徳島県女性協議会元会長
竹内 菊世	徳島ペンクラブ会長
河野南代子	女性と子どもの人権を守る「エンゼルランプ」副代表
野尻 許子	日本網膜色素変性症協会徳島支部長
齒朶山加代	部落解放同盟徳島県連合会書記長
高開千代子	アイ女性会議徳島県本部事務局長
東條 恭子	ストップDV・サポートの会代表
高井 美穂	元衆議院議員／徳島県議会議員
乾 晴美	元参議院議員／AWA女性研究所代表

ました。

最後に、久積センター長より、「資料センターにて今回の連続3回の講座内容を取りまとめ、次の世代へと繋ぐ本を作ること、また、次回講座では徳島が発端となった森永ヒ素ミルク事件を取り上げること、そして徳島県内の労働運動、社会運動の貴重な資料を収集して次の世代へ遺すこと、これらが資料センターの使命であることを皆さんにお伝えしたいと思います。」と締めくくりの挨拶がありました。



《事務局からのお知らせ》

坂尾直也さま、野村英二さま（故人）、山本光代さま、佐和正意さま、中野輝行さま、竹内菊世さま、野尻許子さま、河野南代子さま、以上8名の方から図書・資料一式をご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。

◎研究会メンバーの募集

とくしま社会運動資料センターでは、徳島における社会運動に関する研究会を開催します。参加資格は問いません。興味のある方は、ぜひご参加ください。募集要項、開催案内につきましては、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

《 閱 覧 室 の 利 用 案 内 》 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005

メールアドレス roukan@workpia-tokushima.jp

ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/> / (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■事業報告■

第5公開講座及び第4回パネル展



とくしま社会運動資料センターの第5回公開講座および第4回パネル展が開催されました。

森永乳業徳島工場に端を発し、1万3千人余の乳児に被害をもたらし、当時だけでも130人が死亡するという世界に類のない食品公害事件「森永ヒ素ミルク中毒事件」。事件から60年経った今も、712人が障害や後遺症に苦しんでいます。食の安全が問われる昨今において事件を風化さ

せないためにも、今回はこの事件をテーマとして採り上げることとしました。講師には、元公立学校教諭であり「被害者を守る会」の全国常任理事をされている江口哲生さんを招き、被害者の救済活動さらには食品事件の根絶へ向けた次世代へのメッセージを語って頂きました。本講座は2回連続講座として、後1回の開講を予定しています。

閉会に際し久積センター長から「世界に類を見ない凄惨な事件であり、市民の目線から起こった運動、取り組みとしても類の無いものでありました。この教訓を生かすのが私たちの使命であります」と締めくくりの挨拶がありました。

第5回公開講座

日時 2016年2月9日(火) 18:00～20:00

場所 ヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホール

参加 45名

講師 江口哲生氏

(森永ヒ素ミルク中毒の被害者を守る会

全国本部常任理事／徳島県本部委員長)

テーマ 『森永ヒ素ミルク中毒事件の被害者救済活動、食の安全に関することパートⅠ』



パネル展『森永ヒ素ミルク中毒事件 -親たちの思いを受け継いで-』

日時 2016年2月8日(月)～2月16日(火) ※9日(火)、11日(木)は休み
10:00～15:00

場 所 ヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホール
 参 加 60名
 テーマ 展示パネルは、「森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 岡山県本部」様より、提供して頂きました。2014年10月に岡山市立中央公館にて開催されたパネル『60周年記念行事ー親たちの思いを受け継いでー』にて展示された写真・資料です。



《事務局からのお知らせ》

坂尾直也さま、中野輝行さま、久積育郎さま、
 乾晴美さま、東條恭子さま、辻博史さま、以上6名の方から図書・資料一式をご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。

/// 新着入荷 ///

●阿波女あきんど塾 20 周年記念誌『徳島の女性経営者 100 人に聞く』

出版実行委員会(著),アニバ出版(編集),2016.3

●徳島ペンクラブ選集 PART33 特集モラエスの魅力いま一度

徳島ペンクラブ,徳島県教育印刷(株),2015.5

●世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ

くさばよしみ(編集),汐文社,2014.3



《 閱 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1/TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005

メールアドレス roukan@workpia-tokushima.jp/ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/>

■事業報告■

第6回公開講座 ー報告ー

とくしま社会運動資料センターの第5、6回公開講座および第4回パネル展が開催されました。

森永乳業徳島工場に端を発し、1万3千人余の乳児に被害をもたらし、当時だけでも130人が死亡するという世界に類のない食品公害事件「森永ヒ素ミルク中毒事件」。事件から60年経った今も、712人が障害や後遺症に苦しんでいます。食の安全が問われる昨今において事件を風化させないためにも、今回はこの事件をテーマとして採り上げることとしました。講師には、元公立学校教諭であり「被害者を守る会」の全国常任理事をされている江口哲生さんを招き、被害者の救済活動さらには食品事件の根絶へ向けた次世代へのメッセージを連続2回の講座にて語って頂きました。

閉会に際し久積センター長から「世界に類を見ない凄惨な事件であり、市民の目線から起こった運動、取り組みとしても類の無いものでありました。この教訓を生かすのが私たちの使命であります」と締めくくりの挨拶がありました。

第6回公開講座

日時 2016年3月8日(火) 18:00～20:00

場所 ヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホール

参加 50名

講師 江口哲生氏(森永ヒ素ミルク中毒の被害者を守る会 全国本部常任理事/徳島県本部委員長)

テーマ 『森永ヒ素ミルク中毒事件の被害者救済活動、食の安全に関することパートⅡ』

1. DVD 視聴 『「森永ヒ素ミルク事件」事件発生から60年』

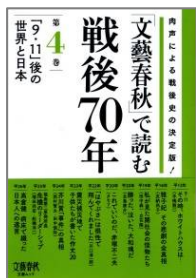
2. 第3期 1974(昭和49)年～現在





/// 新着入荷 ///

- **森永ひ素ミルク中毒事件：事件から60年の年を迎えて**
森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 著, 2015.8
- **「森永ひ素ミルク事件」事件発生から60年 DVD**
森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会岡山県本部, 2015.8
- **「文藝春秋」で読む戦後70年 第1巻～第4巻**
文藝春秋, 2015
- **「九転十起」広岡浅子の生涯：“あさ”が100倍楽しくなる**
古川智映子 監修, 2015



《 閲覧室の利用案内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005

メールアドレス roukan@workpia-tokushima.jp / ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/>

■事業報告■

『輝いた阿波の女性たち』発刊記念祝賀会

『輝いた阿波の女性たち』の発刊を記念して、2016年12月10日(土)徳島グランヴィリオホテルにて祝賀会を開催し、95名の出席者がありました。来賓には、飯泉嘉門徳島県知事、高村千恵子徳島新聞社編集局次長を招き、主な執筆者である元参議院議員でAWA女性問題研究所の乾晴美氏より、執筆者を代表して挨拶がありました。また他の執筆者も登壇し、スピーチして頂きました。



次 第

開会あいさつ	久積育郎氏(社会運動資料センター センター長)
来賓あいさつ	飯泉嘉門氏(徳島県知事)
〃	高村千恵子氏(徳島新聞社編集局次長)
執筆者からの言葉	乾晴美氏、他9名
祝電・メッセージ披露	
乾杯	田辺健二氏(鳴門市賀川豊彦記念館 館長)
昼食懇談	
壇上スピーチ	松下恵子さん(勤労者福祉ネットワーク)他10名
閉会	



第7回公開講座 ドキュメンタリー映画『シロウオ～原発立地を断念させた町～』

とくしま社会運動資料センターの第7回公開講座が、12月10日(土)、徳島グランヴィリオホテルにて開催されました。今回はドキュメンタリー映画「シロウオ～原発立地を断念させた町～」(105分)のDVD鑑賞であり、約2時間の講義に85名の方が参加しました。講座の冒頭では、元「蒲生田岬原子力発電所 建設を阻止する椿町民の会」事務局長)であり元阿南市市議会議員の椋本貞憲氏より、当時の様子をご講話して頂きました。

蒲生田原発は、1968年、四国電力社長が原発立地の候補地として阿南市の蒲生田岬が有力だと発言し、県内の漁業者らが反対する中、愛媛県伊方町への建設が決まりました。しかし四電は伊方に続く原発を蒲生田岬に計画し、76年に徳島県と阿南市に環境調査を申し入れ、住民らが再び反対運動を繰り広げ、県と市は79年に申し入れを「白紙」とし、建設はストップしました。

映画の中では、この蒲生田原発反対運動に関わった人たちのインタビューを交え、当時の様子を振り返っています。



『輝いた阿波の女性たち』発刊

とくしま社会運動資料センターでは、昨年度の乾晴美さんを中心に「輝いた阿波の女性たちパートⅠ・Ⅱ・Ⅲ」と題した公開講座(連続講座)を開催し、2016年11月、その講座内容を基に編集した書籍『輝いた阿波の女性たち』を発刊しました。

『輝いた阿波の女性たち』

目次

第1章 女性が輝く豊かな未来へ

(元参議院議員・AWA 女性問題研究所 代表 乾晴美)

第2章 輝いた阿波の女性たち

(鳥居きみ子／坂口あさ／坂尾茂子／吉田テフ子／紅露みつ)

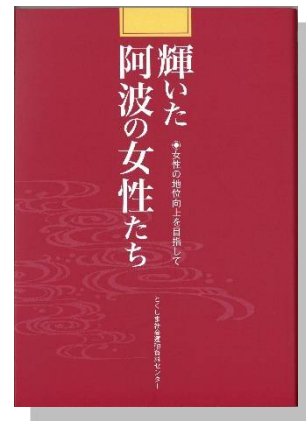
第3章 輝く阿波の女性たち

(原孝枝／磯田正江／竹内菊世／河野南代子／野尻許子
／齒朶山加代／高開千代子／東條恭子／高井美穂／乾晴美)

第4章 女性の地位向上に活躍した人たち

(徳島県女性協議会 20 年史より／徳島県女性議員)

附録資料／参考文献



頒価 1, 0 0 0 円

《 閱 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005 / メール roukan@workpia-tokushima.jp

URL <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■事業報告■

第8回公開講座



「大島青松園視察研修－ハンセン病問題の今－」

日 程 2017 年 11 月 15 日 (水) 8:15～19:40

場 所 国立療養所大島青松園

[香川県高松市庵治町 6034-1]

今回で 8 回目となる公開講座は、ハンセン病問題について理解を深めるため、現地視察として 11 月 15 日、香川県の大島青松園へ視察研修に行きました。会員団体や一般の方 23 名が参加し、講師には、徳

島県ハンセン病支援協会の十川勝幸会長をお招きしました。早朝より中型バスに乗り込み、昭和町を出発、高松港へ向かいました。バスの中では、十川先生による事前学習会が開かれました。高松港に着くと官有船に乗り換え、航路大島へ向かいました。

島に到着すると、松の並木道を抜けて、島の福利厚生施設である大島会館へと向かいました。参加者一同は荷物を置くと、早速フィールドワークへ出かけました。療養所福祉室の元山さんが案内役を引き受けて下さりました。遍路道を歩きながら、納骨堂、火葬場、小石を積み重ねたモニュメント「風の舞」、キリスト教の教会や神社、寺院、そして解剖台を見学しました。フィールドワークを終え大島会館に戻ると、入所者の方との交流会が始まりました。入所者協議会の会長・森和男さんの他、大智慶巳さん、東條高さん、西野ミエ子さんと、4 名の方が参加して下さり、講師の十川さんがコーディネーター役となりました。



交流会には、香川大学医学部の整形外科の研修生 7 名が加わっていました。医学研修のコマで、月に一度は訪問しているそうです。森さん、大智さん、東條さん、西野さん、それぞれ「9 歳で島に連れて来られた」「父親から、いい所に連れて行ってやる、と言われ大島に来た」「(籍元制度により)他の患者の包帯を巻いていた」「療養生活を送りながら家庭菜園を楽しんでいる」

「(幼少期、島に来るまでは)人を見たら隠れていた」と当時の心境を述べられました。入所者の方は皆ご高齢であり、入所者数は年々減っているそうです。この日も私たちが島に入ってすぐ、入所者の方お一人が他界されたとの訃報を聞きました。

約 2 時間の交流を終え、お別れの挨拶を交わした後、大島会館を後にしました。帰りの船に乗り込む頃は、もう夕暮れ時となっていました。船上から見る大島は、恐らく気候の良い季節に訪れるとリゾート地とも思えるような綺麗な島でした。今回の研修では、ハンセン病患者に対する忌まわしい記録、差別を受けた歴史、人権侵害の歴史を感じ取ることができました。実地研修ということで、やはり本やパンフレットだけでは伝わらないものを多く学ぶことができました。



特別企画「ーハンセン病問題の今ー」パネル展

日 時 2017年12月5日(火)～12月13日(水)10:00～15:00

場 所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

内 容 ハンセン病について正しく理解するための学習用パネル／
ハンセン病というペールに包まれた作家・北條民雄のパネル

参加人数 62名

12月5日(火)から12月13日(水)までの間、ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて特別企画「ーハンセン病問題の今ー」パネル展を開催しました。労働福祉会館の関係団体をはじめ、任意団体やNPO法人の代表の方など、一般来館者を含めて65名の方が訪れました。

今回展示した写真パネルについて、「ハンセン病について正しく理解するための学習用パネル」は徳島県保健福祉部健康増進課より、「ハンセン病というペールに包まれた作家・北條民雄のパネル」は阿南市文化振興課より、それぞれお借りしました。



/// 新 着 入 荷 ///

『霊峰焼山寺山の影に』

松浦篤男著, 関西アララギ会, 2009

『ふれあい福祉だより 第12号2015』

社会福祉法人ふれあい福祉協議会, 2015

『ザ・テルミー 秋号 No.408』

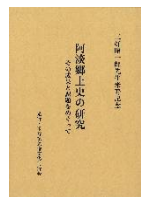
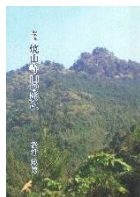
一般財団法人イトオテルミー親友会, 2017

『三好昭一郎先生米寿記念 阿波郷土史の研究 -その成果と課題をめぐって-』

三好昭一郎他刊行会会員13名著, 三好昭一郎先生米寿記念論集刊行会, 2017

『高知の部落史』

高知県部落史研究会編, 高知県部落史研究会, 2017



《 閱 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005 / メール roukan@workpia-tokushima.jp

URL <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■事業報告■

第9回公開講座 (2018.5.28)

日時 2018年5月28日(月) 13:00-14:30
場所 ヒューマンわーくぴあ徳島 5階大ホール
内容 『戦後労働運動と働き方改革』
講師 龍井葉二氏 (前連合総研副所長)

5月28日、とくしま社会運動資料センターの第9回公開講座がヒューマンわーくぴあ5F大ホールにて開催されました。講師には、連合本部を経て連合総研副所長などを歴任された龍井葉二氏をお招きし、今国会で高度プロフェッショナル制度が争点となっている働き方改革関連法案をテーマとして、その本質を探るべく戦後社会の変化や雇用政策について、1時間半に亘りご講演頂きました。講座には、労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者、館内に勤務されている方など43名が出席しました。



初めに労働福祉会館の藤原理事長より開会の挨拶がありました。藤原理事長は挨拶の中で、「最近、過労死という問題が大きく取り上げられている。つい3か月前にも私の大切な友人を亡くしました。彼が多忙を極めているという状況は知っていましたが、ある意味では過労死ではなかったのかなという気がしてならない。そういう意味では、労働法制の国会での議論は、命を巡るやり取りだと感じています」と述べられました。

講座では、戦後の日本社会の変遷について経済や産業など様々な切り口からの説明があり、その中から社会保障や雇用制度の問題点が指摘されました。龍井先生は、「労働組合には職場の労働条件を維持向上させるという最低限の役割がある、しかし、それを超えて家族や職場を通じて接する人達、さらには経営者団体の人達と一緒に、地域の仕事づくり、安定した働き方の担い手になって行くべきだ」と、労働組合の役割の重要性を強調されました。



講座が終わり質疑応答の後、とくしま社会運動資料センターの久積センター長より、「大変わかりやすい講演でした。またぜひ本講座の続編として将来の労働課題について講演して頂きたい。社会運動資料センターとしては、現在取り組んでいる部落史編纂の成果発表、福祉ドキュメンタリー映画『そっちやない こっちや』の上映、大学教授セクハラ事件などの公開講座も企画しているところである」と締めくくりの挨拶がありました。

『徳島における部落史』の刊行に向けて

徳島における部落史とその解放運動の痕跡を一冊の本として取りまとめるため、現在資料センターでは専門家を交え協議を重ねています。協議メンバーには四国大学経営情報学部の関口准教授をはじめとした学識者をお招きし、資料センターの久積センター長、中野運営委員が中心となって、これまでに11回の協議を行ってきました。発刊に向けて今後の見通しなど、本誌面上にてお知らせしていきます。

《事務局からのお知らせ》

●生田治夫さま、長谷川賢二さま、井内健治さま、松崎慧さま、松崎清治さま、以上5名の方、JAMジェイテクトユニオンさま、徳島県教職員組合さま、徳島県職員労働組合さま、自治労徳島県本部さま、解放同盟鳴門ブロックさま、以上6団体から図書・資料一式をご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。

●とくしま社会運動資料センターでは、引き続き、公開講座・パネル展等で取り上げて欲しいテーマを募集しています。

/// 新 着 入 荷 ///

「解雇・退職」対策ガイド(三訂増補版)

金子雅臣・小川浩一・龍井葉二,2013,緑風出版

そっちやない、こっちや 映画監督・柳澤壽男の世界

岡田 秀則・浦辻宏昌,2018,新宿書房

賀川豊彦の贈りものーいのち輝いて

鳥飼慶陽,2007,創言社

賀川豊彦とボランティア

武内勝・村山盛嗣,2009,神戸新聞総合印刷

ビジュアル部落史 第3巻 水平運動と融和運動

大阪人権博物館, 2007

大阪人権博物館 総合展示図録

大阪人権博物館, 2006



■告知・案内■

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《《 閱 覧 室 の 利 用 案 内 》》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1/TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005/Eメール roukan@workpia-tokushima.jp

ホームページ http://workpia-tokushima.jp/ (旧 URL http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/ より、変更しました)

■事業報告■

第10回公開講座

日時 2018年9月8日(土) 9:30~12:10

場所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

内容 映画鑑賞『そっちやない、こっちゃ コミュニティケアへの道』(1982年, 113分 16mmカラー)

講師 NPO法人太陽と緑の会 代表理事 杉浦良氏



とくしま社会運動資料センターの第10回公開講座が、9月8日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催されました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など60名が参加しました。今回の講座は、福祉ドキュメンタリー映画『そっちやない、こっちゃ コミュニティケアへの道』の鑑賞であり、映画解説・講師として、本作品と関わりの深い杉浦良氏(NPO法人太陽と緑の会 代表理事)をお招きしました。

この映画は、福祉ドキュメンタリー映画の巨匠・柳澤監督の作品です。映画の前半部分では、障害者にとっての「コミュニティ・ケア＝地域福祉」とは何かを問ひかけ、後半からは、知的障害者自らが考え建てた共同作業所「ポパイの家」の完成までを追った記録映画です。講師の杉浦良氏は撮影当時の1979年、同志社大学で福祉を学びながら知的障害者施設のボランティアをしており、映画の舞台となった知的障害者施設(愛知県知多市)の療養グループに指導員として加わっています。

本講座の初めに、主催者を代表して久積センター長より開会の挨拶がありました。久積センター長は挨拶の中で、「一億総活躍を謳っている政府の中核、各省庁の障害者雇用の水増し問題、障害者の人権を否定した見せかけの雇用であり、見せかけの共生であります。人間の尊厳を第一とした共生社会の実現が問われています。映画を観て共に勉強しましょう」と述べられました。

上映に先立ち、講師の杉浦氏より映画の紹介がありました。以下、発言要旨。

:

今回見て頂く映画は1981年に完成しました。今から37年前に国際障害者年があった時です。当時の時代背景をお話します。養護学校(現在の支援学校)が義務化されたのが1979年です。愛知県知多市では養護学校が1校もありませんでした。映画に出てくるハンディを持ったメンバー達の殆どが、就学猶予と言い、「学校へは来なくていいですよ」と言われた人達です。精神保健福祉法が施行されたのが1995年。当時、精神障害と言われている人達は、病人のエリアでした。支援の対象ではないと言われていた時代でした。今言われている地域福祉やインクルージョンとは随分と状況が異なります。学校に通えず、施設にも入れない様々なハンディを持ったメンバー達が、例え制度が整っていなくても地域で逞しく生きていく姿を、映画の中でご覧頂ければと思います。

今、障害者福祉をどのように持続可能な社会にするかという問題が、40年前の映画に大事なスピリットがあるのではないかと思います。映画の後半に、当時20代だった私の姿が出てきます。それ



※出所:『そっちやない、こっちゃ 映画監督・柳澤壽男の世界』
2018.2 新宿書房

ではご覧ください。

:

映画の鑑賞後、質疑応答が行われました。「こうした取り組みは、杉浦さん以降どうなっていますか？」との質問に対し、杉浦氏は「自立支援法が2006年に制定され、今映画で見たようなメンバーが作業に参加することは、リスクや安全管理を問われ、非常にやりにくくなる。全国的に見ても少なくなっている」と回答されました。また、太陽と緑の会の現在の状況を聞かれ、「障害者自立支援法に則って運営していないので、就労支援や生活支援は全くしていない。就労支援・グループホーム・生活支援など上手くリンクさせてやっていけば、公的資金を受けられて、もっとステップアップできると言われるが、自分のコンセプトに合わない」と述べられました。



最後に、徳島県労働福祉会館の藤原理事長より、「健常者、障害者の共生について改めて考えさせられ、共に生きていく社会をどう創るのかというのが問われた内容でした。そういう意味では、雇用の問題は共生の原点だと思います」と締めくくりの挨拶がありました。

《事務局からのお知らせ》

/// 新 着 図 書 ///

徳島県の歴史（県史）

石躍胤央/北條芳隆/大石雅章/高橋啓/生駒佳也,2015,山川出版社

ともに学ぶ人間の歴史-中学社会歴史的分野-

安井俊夫, 2015, 学び舎



■告知・案内■

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《《 閱 覧 室 の 利 用 案 内 》》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005 / Eメール roukan@workpia-tokushima.jp
ホームページ http://workpia-tokushima.jp/ (旧 URL http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/ より、変更しました)

■事業報告■

第 11 回公開講座

日時 2019 年 1 月 12 日(土) 10:00-12:00/場所 ヒューマンわーくびあ徳島 5 階大ホール
テーマ 『セクハラ問題について考える ―鳴門教育大教授セクハラ事件を中心として―』



一般社団法人徳島県労働福祉会館が運営する「とくしま社会運動資料センター」の第 11 回公開講座が、1 月 12 日(土)、ヒューマンわーくびあ徳島 5F 大ホールにて開催しました。『セクハラ問題について考える ―主に鳴門教育大教授セクハラ事件について―』と題した 2 時間の講座に、約 100 名の方が参加しました。

事件当時の担当弁護士であった大西聡弁護士による基調講演では、セクシャル・ハラスメントについての歴史的背景から、ハラスメントの定義、法律責任まで、詳細な解説がなされました。鳴門教育大学教授の事件については、木村清志法律事務所の勤務弁護士としてスタートした 1 年目に担当したこと、類似案件に乏しいため学術論文を分析し理論構築を行ったこと、不法行為の立証が難しかったことなど話されました。元大学院生との面談では、「訴訟となると衆人環視に晒され、嫌なことも供述しなければならない」ことを告げたが、彼女の「大学改革のためにも訴訟を起こしたい」という覚悟に押されたと述べられました。

基調講演の後、当時の支援メンバーによるパネルディスカッションが行われました。事件当初、元大学院生から相談を引き受けた元参議院議員の乾晴美氏がコーディネーターとなり、支援団体の中心的存在であった連合徳島女性委員会の当時の委員長・磯田正江氏、連合徳島の書記担当であった東條恭子氏、基調講演に引き続いて大西弁護士、そして事件被害者であり元大学院生の女性と、4 名がパネリストとなり、当時の様子や本裁判の社会的意義について語りました。元大学院生は、「大学側も初めは隠蔽しようとする態度が見えた。もし教授が誠意をもって謝ってくれていたなら裁判には至らなかった。裁判を起こしたときは、やはり周りの人たちに理解して貰えないことが最も辛かった。最後まで支えてくれた支援者の方たちには本当に感謝している」と述懐しました。



第 12 回公開講座

日時 2019 年 3 月 16 日(土) 10:00-12:00/場所 ヒューマンわーくびあ徳島 5 階大ホール
テーマ 部落史関連講座(1)

とくしま社会運動資料センターの第 12 回公開講座を 3 月 16 日、ヒューマンわーくびあ徳島において開催し、48 名の方が参加しました。資料センターでは 2017 年 6 月より、部落解放同盟徳島県連や徳島解放研究所から寄贈された約 5 千点の資料を基に研究者の協力を得て「部落史に関する協議」を進めて来ました。そして徳島における部落史年



表(前近代編・近代編)の素案がまとまり、部落史・社会運動史関連講座を開催する運びとなりました。

1コマ目は徳島県立博物館副館長の長谷川賢二さんに「徳島の部落史研究・前近代編―『部落史の見直し』と現状をめぐって―」というテーマで、2コマ目は国際日本文化研究センター客員准教授の吉村智博さんに「近現代部落史研究の現在―部落差別の歴史的把握はいかになされてきたか―」というテーマで、それぞれ約50分の講座を行って頂きました。

《事務局からのお知らせ》

●仙谷由人事務所より、元衆議院議員で内閣官房長官などを歴任した仙谷由人氏(故人)の関連資料、個人所有の資料などをご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。

/// 新 着 図 書 ///

天皇と日本人ハーバード大学講義でみる「平成」と改元	「右翼」の戦後史
ケネス・ルオフ, 朝日新書, 2019	安田 浩一, 講談社現代新書, 2018
歴史としての東大闘争	アジアの人々が見た太平洋戦争
武, 富田, ちくま新書, 2019	小神野 真弘, 彩図社文庫, 2018
近世の民衆と芸能	アンダークラス
京都部落史研究所, 阿吽社, 1989	橋本健二, ちくま新書, 2018
リベラルを潰せ〜世界を覆う保守ネットワークの正体	新左翼とロスジェネ
金子 夏樹, 新潮新書, 2019	鈴木 英生, 集英社新書, 2009
日中戦争前線と銃後	リベタリアニズム-アメリカを揺るがす自由至上主義
井上 寿一, 講談社学術文庫, 2018	渡辺 靖, 中公新書, 2019

■告知・案内■

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。また公開講座・パネル展等で取り上げて欲しいテーマを募集しています。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 関 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005 / Eメール roukan@workpia-tokushima.jp

ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)

■事業報告■

第 13 回公開講座

部落史関連講座(3)「徳島の被差別民と芸能文化―阿波の箱まわしを中心に―」

辻本一英 氏（芝原生活文化研究所）



とくしま社会運動資料センターの第 13 回公開講座を、6月1日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催しました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など 46 名が参加しました。

冒頭、藤原理事長より「辻本さんは 1970 年代から阿波木偶箱まわし保存会を立ち上げ研究を重ねて来られました。本日同行している保存会副会長の南さんも 90 年代から伝承活動が続けておられます。この貴重な芸能が部落差別によって無くなった、そのことを決して忘れてはならない、という事を念頭に置きながら本講座を聞いて頂きたい」と挨拶がありました。

本講座は部落史連続講座の一つであり、今回は芝原生活文化研究所の辻本一英氏に、「徳島の被差別民と芸能文化」と題して、三番叟回しや箱回しの歴史、被差別部落との関連について語って頂きました。辻本先生は、徳島県指定無形民俗文化財に指定されている阿波木偶「三番叟まわし」、その他、阿波木偶「箱廻し」、阿波木偶「えびすまわし」「大黒まわし」などについて、豊富な写真を交えて詳しく解説され、「被差別部落の文化芸能がどういった役割を果たしたのか、悉皆調査を行い、専門家を交えて検証すれば見えてくる」と述べられました。レジュメには阿波木偶「三番叟まわし」「えびすまわし」の回壇先が地図上にドットプロットされた貴重な調査データも附されていました。また演台の前には、当時の芸人が使用していた諸道具一式やご祝儀帳などが展示され、会場周囲には、徳島から全国へと伝播した人形芝居座の写真パネルが並べられました。



質疑応答後、久積センター長より「全国津々浦々に幸せを届けた箱回し。正月に三番叟で頭を撫でられ、元気になる、勉強が出来るようになれと言われ、頭を撫でて頂いたおかげで今日の文化がある。生活、社会の変遷をしっかり見つめ直しながら、次の世代に向かっていくことが必要かと改めて感じました」と締めくくりの挨拶がありました。

第 14 回公開講座

部落史関連講座(2)「徳島から見た近代の部落史研究」関口 寛 氏（四国大学）

「聞き取り調査報告」中野 輝行 氏（資料センター）

とくしま社会運動資料センターの第 14 回公開講座を、9月7日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催しました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など 47 名が参加しました。冒頭、藤原理事長より「本講座は部落史講座としては 3 回目の開催。センター内で行っている部落史に関する定期協議は 20 回の一区切りとなり、今後は社会運動史研究会として活動を続けて行きたい」と開会の挨拶がありました。



講座は 2 部構成となっており、はじめに四国大学経営情報学部の関口寛准教授より「徳島から見た近代の部落史研究」と題して約 1 時間の講義をして頂きました。関口先生は、部落差別の起因を「前近代」に求める「封建遺制論」を疑問視し、差別事象の「近代性」に着目した考察について述べられました。題材として近代日本を代表する知識人であり、徳島出身の喜田貞吉、鳥居龍蔵、賀川豊彦を採り上げ、彼らの業績を通して部落問題との接点、近代の部落問題の特質について話して頂きました。とりわけ喜田貞吉と鳥居龍蔵については、それぞれ歴史学、人類学という異



なった研究手法により部落問題理を認識したこと、両者がお互いの研究を意識していたことなどに触れられました。

次に中野運営委員より、センター内に設置している部落史資料作成に関する協議における成果発表がありました。解放同盟徳島県連の元委員長や徳島県教組の元書記長など、60年代後半までに徳島の解放運動に関わった人達を中心とした聞き取り調査を報告し、その関連資料などについて説明がありました。中野運営委員は、現在センターにて部落史・社会運動史の年表作成にも取り組んでいます。



質疑応答の後、久積センター長より「社会運動資料センターは今年度より新運営委員体制となった。11月に予定している第15回公開講座の他、パネルや映像による企画展の開催、機関誌の発行、新たに設置された社会運動史研究会など、様々な事業活動を行い、社会に発信して行きたい」と閉会の挨拶がありました。

《事務局からのお知らせ》

徳島県教組、徳島水道労組、狭山事件を考える徳島の会より、それぞれ資料一式を寄贈して頂きました。ご協力ありがとうございました。

/// 新 着 図 書 ///

- 『昭和史講義【戦前文化人篇】』
筒井清忠著,2019,筑摩書房
- 『部落史研究からの発信 第3巻 現代編』
友永健三著,2009,解放出版社
- 『部落史研究からの発信【第2巻】近代編』
黒川みどり著,2009,解放出版社
- 『部落史研究からの発信 第1巻 前近代編』
寺木伸明著,2009,解放出版社



- 『社会科歴史学習(補助教材)改訂版 部落の歴史 埼玉編』
(一財)埼玉人権・同和センター／埼玉県人権教育研究協議会著,2018
- 『闘いの足跡 結成60年の歩み』
部落解放同盟兵庫県連合会著,2019
- 『あきらめない。—ヘイトクライムとたたかった
2,394日原告手記・徳島県教組襲撃事件』
富田真由美著,2019,星雲社



■告知・案内■

第15回公開講座 社会運動史関連講座(1)(2)

日時 2019年11月16日(土) 10:00~12:00

場所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

内容 「徳島における戦後社会運動の特徴」

久積育郎さん(資料センター)

「徳島における戦後の教職員運動」

生駒佳也さん(徳島県立図書館)

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。また公開講座・パネル展等で取り上げて欲しいテーマを募集しています。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 観 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

とくしま社会運動資料センター(運営:一般社団法人徳島県労働福祉会館)

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1/TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005/Eメール roukan@workpia-tokushima.jp

ホームページ http://workpia-tokushima.jp/ (旧 URL http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/ より変更しました)

■事業報告■

第6回パネル展

『吉野川第十堰の可動堰化計画と住民投票』



1月23日(木)から1月30日(木)までの間、『吉野川第十堰の可動堰化計画と住民投票』と題した第6回のパネル展をヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて開催しました。

吉野川第十堰の今昔、可動堰化計画に対する住民運動の起こり(1993年)から、住民投票条例制定要求署名運動(1998年)可動堰化の是非を問う住民投票(2000年)、そして緑のダム構想(2001年)までを当時の資料から振り返る説明用のパネルの他、新聞スクラップや写真アルバム、当時のポスター、新聞スクラップ、

集会イベント用の法被やTシャツなど約70点が並べられました。今回のパネル展では、労働福祉会館の会員団体をはじめ、関係団体など、一般来館者を含めて約85名の方が訪れました。

今回のパネル展の展示資料は「1億2千万のヒーローフェスタ実行委員会」より提供して頂いたものです。「1億2千万のヒーローフェスタ」は、2000年1月23日の吉野川第十堰の可動堰化の是非を問う住民投票から20年、そして2019年2月24日の辺野古米軍基地建設のための埋め立ての賛否を問う県民投票から1年、この二つの住民投票を繋ぐ民主主義の祭典であり、同委員会は2月1日(土)～2日(日)にかけて万代中央ふ頭にて、講演・音楽・上映会・フード・アートなどのイベントを開催し、そちらも多くの方で賑わいました。



※写真右端は「1億2千万のヒーローフェスタ」パネル展の様子

第15回公開講座

社会運動史関連講座(1)「徳島における戦後社会運動の特徴」久積 育郎 氏(資料センター)

社会運動史関連講座(2)「徳島における戦後の教職員組合運動」生駒 佳也 氏(徳島県立図書館)

とくしま社会運動資料センターの第15回公開講座を、11月16日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催しました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など43名が参加しました。

1コマ目の講座では、当センターの代表を務める久積センター長が、徳島における主な労働運動として、親企業の雇用責任を認めた船井電機判決、総評・全金からの脱退に抗した光洋精工の闘い、研究者が立ち上がって薬害を止めた大鵬薬品労組の闘いを取り上げ、その闘いの足跡と後世に遺す意義について話しました。

2コマ目の講座では、徳島県立図書館の生駒氏が徳島における教職員組合運動について講じました。戦後の労働組合法施行による教員組合の結成、日教組の結成、そして勤評闘争(=教員に対する勤務評定反対闘争)から教

員組合の分裂までを詳しく解説し、戦後民主主義の敷衍と学校教育、教員組合の関連性を述べました。



/// 新 着 図 書 ///

- 『昭和史講義【戦前文化人篇】』
筒井清忠著,2019,筑摩書房
- 韓国 行き過ぎた資本主義「無限競争社会」の苦悩
金敬哲著,2019.11,講談社現代新書
- 機会不平等
斎藤貴男著,2016.11,岩波現代文庫
- 内発的発展と地域社会の可能性—徳島県木頭村の開発と住民自治
丸山博著,2006.10,法律文化社
- 国を破りて山河あり 日本で初めて巨大ダムを止めた村長
藤田恵著,2010.11,小学館
- いのちの初夜（青空文庫 POD）
北条民雄著,1955.9,青空文庫
- 日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学
小熊英二著,2019.7.17,（講談社現代新書）
- 東大闘争の語り: 社会運動の予示と戦略
小杉亮子著,2018, 5,新曜社
- 上級国民／下級国民
橘玲著,2019.8.1,小学館
- 続・全共闘白書
続・全共闘白書編纂実行委員会(編集)著, 2019. 12. 31
- 北条民雄—いのちの火影
光岡良二著,1981.12,沖積舎
- ルポ トランプ王国 2
金成隆一著,2019.9,岩波書店

■告知・案内■

第16回公開講座（予）

日時 2020年5月16日(土) 10:00～12:00

場所 ヒューマンワークぴあ徳島5F 大ホール

内容 第二世代からみた全共闘運動（仮題）

講師：小杉 亮子 氏

日本学術振興会特別研究員（PD）ほか。京都大学文学部卒業。東北大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士（文学）。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。また公開講座・パネル展等で取り上げて欲しいテーマも募集しています。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 関 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細は『ご利用のしおり』をご覧ください。

とくしま社会運動資料センター（運営：一般社団法人徳島県労働福祉会館）

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005 / Eメール roukan@workpia-tokushima.jp

ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/>（旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より変更しました）

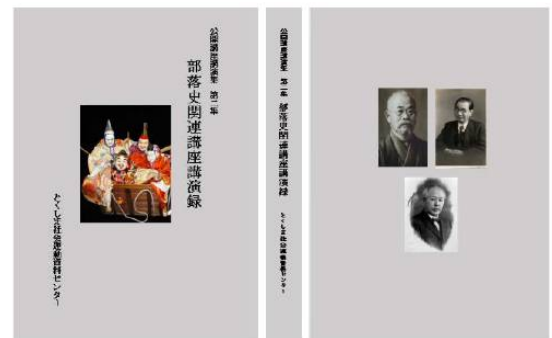
■事業報告■

公開講座講演集第二集『部落史関連講座講演録』

今回、2年余をかけて20回に亘り「徳島の部落史」について調査研究・検討を重ね、2021年1月19日、『公開講座講演集 第二集 部落史関連講座講演録』を出版することになりました。講演録は約200頁で、①「徳島の部落史研究・前近代編」、②「近現代部落史研究の現在」、③「徳島から見た近代の部落史研究」、④「部落解放史資料作成に関わる聞き取り調査報告」、⑤「徳島の被差別民と芸能文化」、さらに徳島の前近代から現代にかけての被差別民・賤民の年表で、それぞれの事項には引用文献と頁が記載された約240頁の二部構成となりました。

【書籍情報】

書誌名称 公開講座講演集第二集『部落史関連講座講演録』
発行者 とくしま社会運動資料センター
発行日 2021年1月19日
製本 A5判／右開き／縦書き／441頁／ソフトカバー
発行部数 500冊

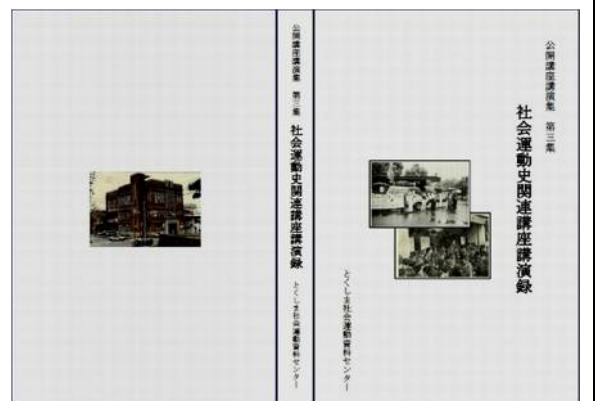


『公開講座講演集 第三集 社会運動史関連講座講演録』の発刊

本講演集の前半は、2019年11月16日に社会運動史関連講座(1)(2)として開催された公開講座の講演録を収録しており、後半は徳島の戦後社会運動史の年表(1945年～2000年)と2部構成となっております。講演録では、徳島における主な労働運動として、親企業の雇用責任を認めた船井電機判決や総評・全金からの脱退に抗した光洋精工の闘いなど、また教職員組合運動として戦後の労働組合法施行による教員組合、日教組の結成、そして勤評闘争(=教員に対する勤務評定反対闘争)から教員組合の分裂にかけて、特徴的な出来事を解説しています。また社会運動史年表では、社会党徳島県連が結成された戦後間もなくの1945年から吉野川第十堰可動堰化をめぐる住民投票が実施された2000年まで、国内外の主な出来事と対照させながら徳島の社会運動の歴史を記しています。

【書籍情報】

書誌名称 公開講座講演集第三集『社会運動史関連講座講演録』
発行者 とくしま社会運動資料センター
発行日 2021年6月15日
製本 A5判／右開き／縦書き／117頁／ソフトカバー
頒布価格 300円



《事務局・運営委員会より》

○吸収合併に関するお知らせ

当センターを運営してきました一般社団法人徳島県労働福祉会館は、本年2月1日、公益社団法人徳島

県労働者福祉協議会との吸収合併により解散しました。センターの運営は、2月1日より公益社団法人徳島県労働者福祉協議会が引き継いでおります。

○運営委員会に関するお知らせ

資料センターの運営委員会が4月19日に開催されました。運営委員は、新任・再任あわせて11名となりました。

【委員名簿】

代表委員	藤原 学（公社・徳島県労働者福祉協議会）	委 員	岡田 健一（鳴門市賀川豊彦記念館）
副代表委員	中野 輝行（とくしま社会運動資料センター）	//	乾 晴美（元参議院議員／AWA女性問題研究所）
委 員	島 和久（日本労働組合総連合会徳島県連合会）	//	東條 恭子（ストップ・DVサポートの会）
//	好野 祐司（徳島人権・平和運動センター）	//	久積 育郎（とくしま社会運動資料センター）
//	齒朶山 加代（部落解放同盟徳島県連合会）	//	生駒 佳也（とくしま社会運動資料センター）
//	杉本 友好（公団・徳島県勤労者福祉ネットワーク）		

/// 新 着 図 書 ///

- 『白人ナショナリズム』 渡辺靖 中央公論新社 2020年5月
- 『講談社現代新書 同調圧力 日本社会はなぜ息苦しいのか』 鴻上尚史・佐藤直樹 講談社 2020
- 『人新世の「資本論」』 斎藤幸 平集英社新書 2020
- 『木頭村——その山河が問いかけるもの』 藤田 恵 東京シュレー出版 2020年
- 『「一隅を照らす県政」から始まる物語 徳島県ハンセン病支援協会と私』 徳島県ハンセン病支援協会 会長 十川勝幸 2021年
- 『徳島市史資料集』 徳島市史編さん室、徳島市教育委員会 2019年
- 『私が軍国少女を生きた時代』DVD第1～3集 退職女性教職員の会 2019年
- 『奇跡の村 木頭と柚子と命の物語』 麻井みよこ監修 臼木 弘 2020年
- 『大草原を夢見る鳥雲先生 中国ホルチン砂漠の緑化と教育に生涯をかける残留孤児のお話』 鳥雲先生をたたえる市民の会 2021年
- 『鳥居龍蔵の学問と世界』 県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会 編 思文閣出版 2020年

■告知・案内■

第16回公開講座（予）

日時 2021年 ※詳細未定

場所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

内容 第二世代からみた全共闘運動（仮題）

講師：小杉 亮子 氏

日本学術振興会特別研究員（PD）ほか。京都大学文学部卒業。東北大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士（文学）。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。また公開講座・パネル展等で取り上げて欲しいテーマも随時募集しています。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 関 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

とくしま社会運動資料センター（運営：公益社団法人徳島県労働者福祉協議会）

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 ヒューマンわーくびあ徳島2F TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005

メール roukan@workpia-tokushima.jp ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/>

■事業報告■

とくしま社会運動資料センター第16回公開講座

日時 2023年3月25日(土)13:30～15:30

場所 ヒューマンワークぴあ徳島5F大ホール

内容 演題 『1960年代全共闘運動とその遺産』

講師 小杉 亮子 氏 (埼玉大学大学院人文社会科学研究科 准教授)



とくしま社会運動資料センターの第16回公開講座が、3月25日(土)ヒューマンワークぴあ徳島5F大ホールにて開催されました。今回は、『1960年代全共闘運動とその遺産』と題した約2時間の講演であり、講師には埼玉大学大学院人文社会科学研究科准教授の小杉亮子氏をお招きし、関係者を含め41名の方が参加しました。

小杉先生は全共闘運動研究の第一人者として、講座の中でまず「ベトナム反戦や沖縄返還等の政治

課題、学生自治権、大学再編などをめぐって60年代に学生運動が起こった背景」について述べられ、「その中で生まれた学生自治会を超えて組織された新しい発想は、全共闘運動に学生たちが参加し、東大闘争では自己否定、大学解体という知的権威主義をも否定しつつ、自らの生き方と社会変革を重ね合わす方向性を持っていた」と論じられました。また地域の歴史と社会を形成してきた運動にも言及され、その運動資料の収集、保存の重要性を説かれました。



《小杉先生の著書紹介》



◎東大闘争の語り: 社会運動の予示と戦略

単行本 - 2018/5/15

小杉 亮子 (著)



◎運動史とは何か (社会運動史研究1)

単行本 (ソフトカバー) - 2019/2/15

大野光明 (編集), 小杉亮子 (編集), 松井隆志 (編集)

◎「1968」を編みなおす (社会運動史研究2)

単行本 (ソフトカバー) - 2020/4/22

大野光明 (編集), 小杉亮子 (編集), 松井隆志 (編集)

◎メディアがひらく運動史 (社会運動史研究3)

単行本 (ソフトカバー) - 2021/7/19

大野光明 (編集), 小杉亮子 (編集), 松井隆志 (編集)

◎越境と連帯 (社会運動史研究4)

単行本 (ソフトカバー) - 2022/7/9

大野光明 (編集), 小杉亮子 (編集), 松井隆志 (編集)

とくしま社会運動資料センター第7回パネル展

日時 2022年6月20日(月)～6月27日(月)

場所 ヒューマンわーくびあ徳島305号室

内容 『ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和記念植樹写真パネル展』

備考 初日に開催式が行われ、出席は19名。とくしま社会運動資料センターの藤原学表委員およびヒロシマ被爆アオギリⅡ世徳島実行委の久積実行委員長が挨拶を行った。



/// 新 着 図 書 ///

●『賀川豊彦全集』と部落差別—『賀川豊彦全集』
第8巻の補遺として 資料集
単行本 - 1991/7/1 キリスト新聞社(編さん)

●失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック
単行本 - 2022/3/22
新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム(著)

●「ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹写真集—未来への願い—」
2022/2/2
ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹
写真展徳島実行委員会



■調査研究・資料収集■

「井藤正一日記」研究会

徳島の社会運動史研究に資するため「井藤正一日記」の翻刻により井藤の足跡を追求することを通じて、徳島の部落改善運動、水平運動、融和運動を多面的な角度から分析し、徳島の部落解放の歩みを明らかにします。

具体的には、「井藤正一日記」を研究者の共通の財産とするために翻刻内容を検討します。尚、「井藤正一日記」原本については、徳島県立博物館より提供頂きました。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

資料提供のお願い

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 関 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

とくしま社会運動資料センター (運営:公益社団法人徳島県労働者福祉協議会)

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 ヒューマンわーくびあ徳島2F TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005
メール roukan@workpia-tokushima.jp ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/>

■事業報告■

第17回公開講座

2024年7月13日（土）10時よりヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて、第17回公開講座が開催され、労働組合、労働者福祉事業団体などから52名の参加があった。



プログラム

講座①「三度の労働争議

—地場造船産業と地域雇用を守る闘い—

全日本造船機械労働組合徳島造船分会

元委員長 国見 聖 氏

講座②「長尾鉄工労組の工場閉鎖、

全員解雇の流れ——」

長尾鉄工労働組合

元副委員長 一森 幸夫 氏

講座③「ダニロンの疑惑を正せ！

—労働組合の社会的責任—

全国一般大鵬薬品労働組合

元執行委員長 北野 静雄 氏

コメント

とくしま社会運動資料センター

委員 久積 育郎



第18回公開講座

2024年12月7日（土）午後1時より、徳島県立図書館3階集会室にて第18回公開講座が開催され労働組合、労働者福祉事業団体などから48名の参加があった。



プログラム

シンポジウム「創立100周年 徳島水平社をいま考える

—— 青年活動家・井藤正一の日記をめぐって ——」

《報告・発表》

「井藤正一日記」とは

松永 友和 氏（県立博物館学芸員）

「井藤正一日記」からみた徳島水平社

板東 紀彦 氏（資料センター研究員）

青年活動家・井藤正一の想いと行動―「日記」から読み解く―

佐藤 正志 氏(摂南大学名誉教授)

部落史研究の現在と「井藤正一日記」の魅力

関口 寛 氏(同志社大学教授)

《シンポジウム》

コーディネーター 長谷川 賢二 氏(県立博物館学芸員)

コメンテーター 関口 寛 氏(同志社大学教授)



■告知・案内■

◎公開講座講演集の発刊へ向けて

資料センターでは、第17回及び第18回公開講座の講演集の発刊へ向けて、編集作業中であります。それぞれ400部程度発行し、頒布価格にて皆さんにご提供します。興味のある方は、ぜひご連絡ください。

■調査研究・資料収集■

「井藤正一日記」研究会

徳島の社会運動史研究に資するため「井藤正一日記」の翻刻により井藤の足跡を追求することを通じて、徳島の部落改善運動、水平運動、融和運動を多面的な角度から分析し、徳島の部落解放の歩みを明らかにします。

具体的には、「井藤正一日記」を研究者の共通の財産とするために翻刻内容を検討します。尚、「井藤正一日記」原本については、徳島県立博物館より提供頂きました。

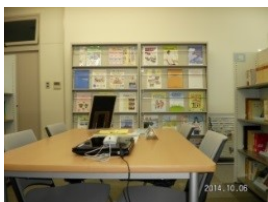
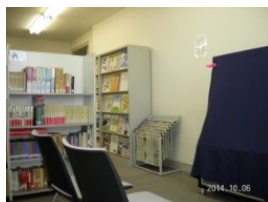
★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

資料提供のお願い

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《 閱 覧 室 の 利 用 案 内 》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

とくしま社会運動資料センター (運営:公益社団法人徳島県労働者福祉協議会)

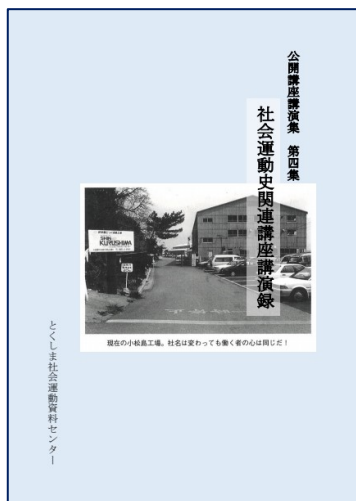
〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 ヒューマンわーくびあ徳島2F TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005

メール roukan@workpia-tokushimajp ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/>

■事業報告■

公開講座講演集 第四集『社会運動史関連講座講演録』＝発刊＝

2024年7月13日に開催しました第17回公開講座を取りまとめ、今回で第4集となる公開講座講演集を発刊しました。この公開講座は3つの講演で構成されており、講座①は「三度の労働争議―地場造船産業と地域雇用を守る闘い―」と題した全造船機械労働組合徳島造船分会の闘争について、講座②は「長尾鉄工労組の工場閉鎖、全員解雇の流れ―」と題した長尾鉄工労組の闘争について、講座③は「ダニロンの疑惑を正せ！―労働組合の社会的責任―」と題した全国一般大鵬薬品労働組合の闘争についての3講座です。講演録をベースとして、写真や新聞記事の他、労使闘争における要請書や決議文など、当時のままの資料を織り交ぜて構成しています。



目次

発刊に当たって	1
公益社団法人徳島県労働者福祉協議会 森本 佳広	
社会運動史関連講座(1)	7
「三度の労働争議―地場造船産業と地域雇用を守る闘い―」	
全日本造船機械労働組合徳島造船分会 元委員長 国見 聖 氏	
社会運動史関連講座(2)	41
「長尾鉄工労組の工場閉鎖、全員解雇の流れ―」	
長尾鉄工労働組合 元副委員長 一森 幸夫 氏	
社会運動史関連講座(3)	79
「ダニロンの疑惑を正せ！―労働組合の社会的責任―」	
全国一般大鵬薬品労働組合 元執行委員長 北野 静雄 氏	

発行日 2025年3月25日 発行者 とくしま社会運動資料センター

仕様 A5判／124ページ／モノクロ／ソフトカバー 頒価500円

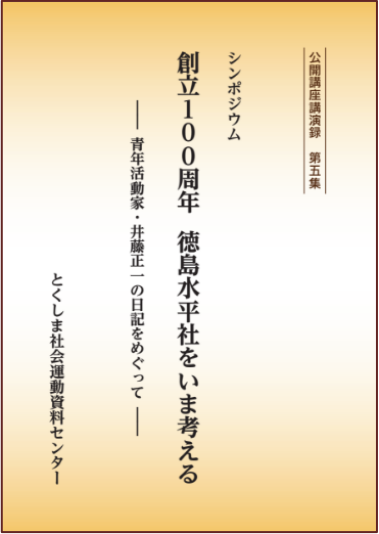
公開講座講演録 第五集『創立100周年 徳島水平社をいま考える』＝発刊＝



とくしま社会運動資料センターは、「社会運動はその性格上、一定の役割を果たすと運動母体が消散し、運動に関わる様々な資料は散逸するものも数多くある。県内唯一の勤労者センターとしてこうした貴重な文献資料を集積し、広く県民へ閲覧開放することにより、勤労者福祉の発展に寄与する」ことを目的に2014年10月に設立しました。2021年2月には当センター事業が労働福祉会館から県労福協の事業となりましたが、開設以来、公益事業として公開講座やパネル展を開催してきました。

今回、徳島水平社結成前後を記録していた「井藤正一日記」(井藤正一は徳島水平社設立の中心メンバーの一人、1902～1960年)を徳島県立博物館と連携して月例の翻刻委員会を開催し、翻刻作業を進めてきまし

た。そして、その成果発表として昨年12月7日にシンポジウム「創立100周年 徳島水平社をいま考える——青年活動家・井藤正一の日記をめぐる——」を開催し、ようやく講演録の発刊の運びとなりました。

	目次 発刊にあたって 1 県労福協とくしま社会運動資料センター 報告Ⅰ「井藤正一日記」から見た徳島水平社 3 板東紀彦さん(とくしま社会運動資料センター研究員) 報告Ⅱ「青年活動家・井藤正一の想いと行動―井藤正一日記から読み解く―」 25 佐藤正志さん(摂南大学名誉教授) コメント「部落史研究の現在と「井藤正一日記」の魅力」 67 関口寛さん(同志社大学教授) パネルディスカッションの記録 73 コーディネーター 長谷川賢二さん(徳島県立博物館学芸員) コメンテーター 関口寛さん(同志社大学教授) 「井藤正一日記」翻刻委員会の翻刻経過 93 中野輝行さん(とくしま社会運動資料センター研究員) 資料・徳島水平社創立100周年に関する「徳島新聞」記事 111
---	---

■調査研究・資料収集■

「井藤正一日記」研究会

徳島の社会運動史研究に資するため「井藤正一日記」の翻刻により井藤の足跡を追求することを通じて、徳島の部落改善運動、水平運動、融和運動を多面的な角度から分析し、徳島の部落解放の歩みを明らかにします。

具体的には、「井藤正一日記」を研究者の共通の財産とするために翻刻内容を検討します。尚、「井藤正一日記」原本については、徳島県立博物館より提供頂きました。

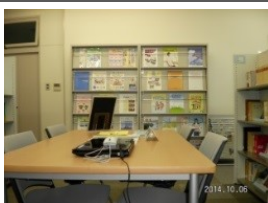
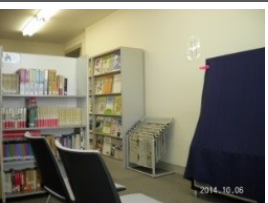
★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

資料提供のお願い

徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

《《 閲覧室の利用案内 》》

◎閲覧コーナー	◎検索コーナー	◎視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

とくしま社会運動資料センター（運営：公益社団法人徳島県労働者福祉協議会）

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 ヒューマンワークびあ徳島2F TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005

メール roukan@workpia-tokushima.jp ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/>